



## 講演 1

### チーム医療で何を診るか

長谷川 嘉昭 先生

長谷川歯科医院 院長

川崎 律子 先生

長谷川歯科医院 歯科衛生士

多因子疾患である歯周病の病因論はすべて解明されているわけではありません。寛解状態をいかに長期的に安定させうることが問われる特殊な疾患であり、それだけに治療はもちろんのこと、終了時からの定期検診は重要で、それをサポートする歯科衛生士の力量が予後に影響をあたえてしまう、本当に難しい疾患だと思っています。20年、30年とまたはそれ以上の長期にわたり通院する歯科の特殊性を鑑みると、「最小限の医療介入戦略」を柱に、変化し続ける口腔内環境にどう対応するべきかと・・・それには「チーム医療としての戦略と戦術」が大切であり、情報共有が鍵を握ると確信しています。

本講演から、「チーム医療で何を診るのか」を、皆さん一人ひとりに考えていただけるきっかけになればとの想いを込めてお話しさせていただきます。

主役は歯科衛生士の皆さんです！！

## 長谷川 嘉昭 先生

### ご略歴

- ・ 日本大学歯学部卒業
- ・ 日本歯周病学会専門医
- ・ 日本臨床歯周病学会指導医
- ・ 東京医科歯科大学非常勤講師

### 主な著書

- ・ 歯科臨床の羅針盤 2 思い込みの歯科医療からの脱却  
インターアクション 2018年12月 (共著)
- ・ フラップ手術のすすめ 医歯薬出版株式会社 2018年5月 (共著)
- ・ 歯周外科の基本テクニック 医歯薬出版株式会社 2017年12月 (共著)
- ・ よくわかる歯科小手術の基本 デンタルダイヤモンド社 2016年10月 (共著)
- ・ 歯周病患者におけるインプラント治療のガイドライン  
クインテッセンス出版 2013年6月 (共著)
- ・ 歯周病患者におけるインプラント治療の実践 医学情報社 2011年3月 (共著)

## 川崎 律子 先生

### ご略歴

- ・ 長谷川歯科医院勤務
- ・ 歯友会歯科技術専門学校 (現 明倫短期大学) 卒
- ・ 日本歯周病学会認定歯科衛生士
- ・ 日本臨床歯周病学会指導歯科衛生士
- ・ 日本顎咬合学会指導歯科衛生士
- ・ 日本口腔インプラント学会認定インプラント専門歯科衛生士

### 主な著書

- ・ 健康で美しい口腔をつくる歯科衛生士のための審美歯科入門  
医歯薬出版 2008年1月 (共著)
- ・ モチベーションを上げる15のアドバイスーなんで磨いてくれないの？ー  
クインテッセンス出版 2009年12月 (共著)

## 飲みこめていますか？咀嚼のその後

植草 康浩 先生

双葉耳鼻咽喉科医院

医師（耳鼻咽喉科）／歯科医師

歯科における摂食嚥下障害と聞くと、訪問診療の対象疾患や大学や病院歯科での管理などを思い浮かべる方は多いでしょう。最近では、後期高齢者歯科検診で嚥下機能評価を組み入れることになっていきますので、具体的に関わったことのある方もいるかもしれません。

「オーラルフレイル」という言葉もよく耳にするようになりました。とはいえ、一般の歯科外来では患者自身から「上手く食べられないんです」という訴えがなければ、こちらから積極的に検査をするようなこともないのが実情です。

むろん神経筋疾患や無歯顎、歯牙欠損の多い患者では咬合も破綻していますから十分な咀嚼も出来ず食事も難しいでしょう。摂食嚥下障害とは何らかの病に罹患し、あるいは後期高齢者になってはじめて起きることなのでしょうか。

本日は、摂食嚥下メカニズムについて全体を簡単に俯瞰してから、明日からのチェアサイドで出来ることについてお話させて頂ければと思います。

## 植草 康浩 先生

### ご略歴

- ・ 1997年 鶴見大学歯学部卒業/大阪大学歯学部第二口腔外科
- ・ 1999年 日本学術振興会特別研究員（大阪大学）
- ・ 2001年 大阪大学大学院歯学研究科博士課程修了 博士（歯学）
- ・ 2006年 千葉大学医学部卒業/千葉大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- ・ 2011年 千葉大学大学院医学研究院博士課程修了 博士（医学）
- ・ 2015年 国立研究開発機構国際医療研究センター病院耳鼻咽喉科
- ・ 2011年～ 現職

### 主な著書

- ・ 鯨類の骨学 緑書房 2019
- ・ 海獣診療マニュアル 上巻/鯨類の診療編 学窓社 2022
- ・ 海獣診療マニュアル 下巻/鰭脚類・海牛類の診療編 学窓社 2023

## 患者さんに伝わるコミュニケーション

石川 ひろの 先生

帝京大学大学院公衆衛生学研究科 教授

医療場面におけるコミュニケーションの重要な目的の1つは、情報と意思決定の共有です。「分かりやすく」「十分な」説明は、患者さんの適切な意思決定や行動につながるだけでなく、患者さんとの信頼関係を築くうえでも重要です。にもかかわらず、患者と医療者では何が「分かりやすく」どの程度が「十分」であるのかの受け止めがずれていたり、治療に対する期待や目標が異なっていたりすることがあります。こうしたすれ違いの背景には、患者さんと医療者との専門的な知識の違いや、病気や健康に関する視点や考え方の違いがあります。効果的に予防行動を促し、治療を継続していくためには、コミュニケーションを通じて、患者さんの考えを理解すること、その上で医療者としての考えを分かりやすく伝え、理解をしてもらうことの両方が大切です。

講演では、患者さんに伝わる説明のコツを紹介し、患者さんとの相互理解と協働に向けたコミュニケーションについて考えます。

## 石川 ひろの 先生

### ご略歴

- ・ 東京大学医学部 健康科学・看護学科卒業
- ・ Johns Hopkins University, School of Public Health 博士課程修了
- ・ 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 博士課程修了
- ・ 帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 助教・講師
- ・ 滋賀医科大学医療文化学講座 准教授
- ・ 東京大学大学院医学系研究科医療コミュニケーション学分野 准教授
- ・ 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 帝京大学医療共通教育研究センター 教授

### 主な著書

- ・ ヘルスリテラシー：健康教育の新しいキーワード 大修館書店 2016 (共著)
- ・ 保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門 大修館書店 2020
- ・ ナッジ×ヘルスリテラシー：ヘルスプロモーションの新たな潮流 大修館書店 2022 (共著)

## 求められるMy 歯科衛生士になるために

西沢 邦浩 先生

日経BP総合研究所 客員研究員

「日経ヘルス」元・編集長

講師の先生方の講演内容をふまえ、求められるMy 歯科衛生士になるために必要なこと、歯科衛生士を支えるために必要な仕組み、患者さんとのコミュニケーションのあり方などについて、様々な視点からディスカッションしていきます。

## 西沢 邦浩 先生

### ご略歴

- ・小学館を経て、91年日経BPに入社
- ・2004年～ 『日経ヘルス』 編集長
- ・2008年～ 『日経ヘルス プルミエ』 編集長
- ・2011年～ 日経BPビズライフ局プロデューサー  
兼 株式会社テクノアソシエーツ ヴァイスプレジデント
- ・2016年～ 日経BP 総合研究所マーケティング戦略研究所主席研究員
- ・2018年～ サルタ・プレス設立（代表取締役）  
日経BP 総合研究所メディカル・ヘルスラボ客員研究員

### 主な著書

- ・日本人のための科学的に正しい食事術 三笠書房
- ・100年ライフのサイエンス 日経BP（共著）
- ・ヒットする！ 食品の機能性マーケティング 日経BP（共著） 他